

## 第5回政策評価委員会全体会議録

日 時	平成28年11月24日（木）午後4時～5時
場 所	北上市生涯学習センター 学習室（第1、第2）
出席者	【委員】山田晴義委員長、佐藤徹副委員長、井上博夫委員、小野寺純治委員、児山正史委員、高橋秀行委員 （欠席__熊谷智義委員、志賀野桂一委員、宗和暢之委員、高樋さち子委員） 【事務局】企画部長、政策企画課長、小山政策企画課長補佐、行政経営係長、高橋(克)主査、財務部長、財政課長、小原財政課長補佐

はじめに各専門部会から評価結果の報告を行い、次に報告書の構成及び提出の時期を確認した。その後、委員長、副市長がそれぞれあいさつを行った。

### 1 報告・協議

#### (1) 平成28年度評価結果について（行政評価検証専門部会）

##### 【評価結果及び部会総括の報告】

佐藤副委員長が、評価結果及び部会総括について報告を行った。

内容は第5回行政評価検証専門部会会議録のとおり。

##### 【質疑応答】

(委員) 事務事業評価シートへ未記入が多いとのことであるが、シート構成が適切でないと判断したのか、書かなかったことが適切でないと判断したのか。

(委員) 実体がよくわからなかった。空欄が多かったが、なぜ書かなかったのかまでは分からなく、委員としては判断できなかった。また、事務事業評価のマニュアルの問題や、多忙の中での評価ということもあるであろうが、少なくとも外部評価対象のものは埋めてもらいたいということ。

#### (2) 平成27年度評価結果について（出資法人等協働評価専門部会）

##### 【評価結果及び部会総括の報告】

山田委員長が、評価結果及び部会総括について報告を行った。

内容は第5回出資法人等協働評価専門部会会議録のとおり。

##### 【質疑応答】

(委員) 北上市の地域コミュニティ政策は、16地区へ交流センターを設置し、地域づくり組織が設置されているということで、非常に画期的だと感じる。近隣他市と比較しても優れていると感じた。「課題の認識」以降の評価が厳しいものとなっているが、報告にもあったが、現場では上手くいっているものの行政で捉えられていないのか、現場に問題があったのかどちらか。

(委員) 行政としてはよくできていて、各地域としても、地域計画策定や交流センター

運営など、自主的に、自立した展開が成されている。そのため、事業そのものを評価すると高いものになるであろう。「課題の認識」以降がCというのは、捉えられている課題が抽象的であり、対策に繋がらないのではないかという意味である。もし地域の自治組織を評価すれば、Aとなるであろう。

(委員) 評価シートをみると、地域の担い手の高齢化、固定化やイベントの多さなど、手一杯になっているのではないかと感じられる部分がある。取り組みの実態に関する課題も見えていると思われ、どの程度市が認識しているかという点への評価はどうか。

(委員) 評価シートの課題の認識にあるとおり、例えば「地域づくり組織が対応すべきことの多様化や複雑化」とあるが、これは当然の話であり、どの自治体でもあり得るもの。北上市において具体的にどういうものなのかを詰める必要があるということ。記載されている要因では、次の施策に結び付いていかない。コメントとして、活動実績を分析することで要因がみえてくるという意見を述べている。また、課題に対してもっと市民やNPOと議論することで、具体的な課題が見えてくるであろう。

(委員) 内部評価の課題が表層的で抽象的となり、要因分析が甘くなっているということについて、なぜ課題が表層的で抽象的なものに留まっているのかというのは、記入要領があったとすればその説明がよくなかったかもしれないし、記入方法の説明がよくなかったかもしれない。また、地域ごとに抱えている課題は異なるであろう。地域ごとに分けて記載するようという説明があれば、より具体的な記載になったかもしれない。もしくは、職員が地域に入って対話を重ねる中で、課題を把握できているのかということに問題があるため、表層的で抽象的な課題となっているのかもしれない。

(委員) 地域交流センターの運営を指定管理にしているということで、市民に任せている形のため、行政としては課題を把握しづらくなっているのであろう。

(委員) 佐藤副委員長の意見については、二つともそうであると思う。もう少し具体的に書けるようなシートにするべきであったと思う。どういう形で内部評価を求めたかは分からないが、それについても部会で意見は出された。

(委員) 市の担当者は、とてもよく地域に入って分析していると思う。しかし16地域あるということで、それを一つにまとめて整理したことで抽象的にならざるを得なかったのであろう。部会としても、ヒアリングした1地区の課題に対してはコメントできるが、16地区全体に対するコメントとなると、入りきれなかった。時間の兼ね合いもあったかもしれない。

(委員) 内部評価のやり方の問題と、外部評価への出し方の問題があった。担当者のところでは、地区ごとの活動実態を示すシートを作成できている。それを整理できれば、具体的な課題を提示することが可能になったであろう。内部評価のま

とめ方に工夫が必要であったと感じる。

### (3) 平成28年度外部評価報告書について

事務局から平成28年度外部評価報告書の構成について、資料により説明を行った。

#### 【事務局説明】

- ・報告書の構成については前年度と同様の構成としたい。
- ・報告書作成までのスケジュールは別紙資料のとおり。
- ・報告書は、山田委員長より平成29年1月20日（仮日程）に市長報告いただく。

#### 【質疑応答】

(委員) 先ほどの補足になるが、地域コミュニティ政策について、C評価が多いということで、市民によっては、自分たちがC評価されたと誤解する可能性がある。地域づくり組織を評価したのではなく、あくまで行政の内部評価の方法について評価したということが分かるよう、報告書へ明記したいという話を、部会で行ったところである。

## 2 委員長あいさつ

6年目の委員会も、無事に終了することができた。皆様に感謝申し上げたい。この評価システムもかなり定着しており、当初に比べると安心して議論できていると感じる。しかし、この評価に対して、市民がどう思っているのか、行政職員がどういう感触を持っているのか、厄介だと感じているのか、行政の文化として定着しつつあるのか、知りたいところである。この取り組みが意義のあるものであることは確かであり、行政職員にとって一つの文化として定着することが重要であると思う。それに向けて事務局と委員会では、引き続き努力をしていかなければならないであろう。

この外部評価というのは、やればやるほど深みがでてくる。市に対する理解が深まっていると思う。次第に、(自分が)北上市のファンになってきていると感じている。

今後も常に反省しながら前進していってほしい。どうもありがとうございました。

## 3 副市長あいさつ

全5回にわたる委員会で審議いただき、感謝申し上げます。今年度の評価に当たっては、職員に対して、委員と職員が互いに理解し合いながら進められるよう、資料の準備や説明など丁寧に行うことを指導したところではある。不十分な点があったとすれば、ご容赦願いたい。次回以降は充実させていきたい。

本日の報告では、まず、行政評価検証専門部会については、成果の定義がしっかり押えられているかということが重要であり、その後うまく流れていないということで、その点まだまだ未熟であると感じた。また市では、施策評価としつつも、事務事業を実施するに当たっての理屈付けになってしまっていると感じる。職員に対しては、改めて施策の意味を考えさせ、そのための事務事業なのだということを理解させていきたいと思う。そして、評価シートについては、まだまだ理解していない職員が多い。資料が多く、また、指導の体制ができていないということもあるが、次年度に向けて改善していきたい。

次に出資法人等協働評価専門部会については、地域コミュニティ政策における問題に関する意見を頂戴した。北上市は先進自治体であるという自負があるものの、行政又は地域にとって、地域コミュニティ政策における到達点がどこなのかということが見出せていないまま、事業が進んでいると感じている。地域計画を策定したものの、自分たちにできることが何なのかという作り込みが高尚であるがゆえに、苦勞している地域もある。どこまでやればよいか不安になっているところもあると思われ、地域住民を安心させることが行政として必要なのだと思う。また、地域によっては進んでいるように見えるところがあり、遅れていると感じた地域が焦って事業を行い、疲弊に繋がっている。遅れている地域においては課題が挙げられ、そこでは地域からの意見が多くなっている。地域毎にみるとよくできているところもあり、しっかり検証して進めていきたい。

一年間の委員会、ありがとうございました。